

インターバンクの声（2016 年 2 月 18 日）

昨夜のロンドン市場は、軟調だった原油価格が上昇に転じたことや欧州株全般の値上がりからリスクセンチメントが改善され、ドル円や資源国通貨が上昇した。前日の市場はサウジアラビアやロシアなどの原油生産国による減産協議結果に失望するような反応を見せたが、昨日はイランが生産量維持案に支持を表明したことが原油価格の上昇に繋がったようだ。特段、昨日から大きな変化はないようにも思われるが、普段は敵対的な姿勢をとっているこれら原油生産国同士が意見を揃えたことだけでも価格上昇には十分だったと解説する専門家の意見に頷くしかないのかも知れない。ニューヨーク市場でも米住宅着工件数を除けば生産者物価指数や鉱工業生産が堅調な結果だっただけに、もう少しドルの反発も期待されたが、ドル円については 114 円台中盤からの上値はドル売りとの認識が強いのだろう。その後、公表された 1 月の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録も金融市場の混乱が米経済にもたらす「下振れリスク」が高まっているとの懸念が示され、こちらもドルの反発を妨げる材料になった。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。